

カガヤキ

暫定的補足表題「ウオランタス」
ラテン語でボランティアの意

No.75(2024.5.15 刊行)、広報委員会編集
茨城県立図書館発行
禁複写転載©広報委員会



青木莉里さん

令和6年度 着任者自己紹介

(氏名のあいうえお順)

新人図書館職員の生活について

館内サービス課 青木莉里

みなさまはじめまして。4月から配属となりました、青木と申します。今年度から主に雑誌や図書修理等を担当させていただくことになりました。

この研修期間を振り返ってみると、まずはカウンター業務を学ぶとともに、雑誌等資料の受入等を行っています。しかし、日が経つにつれてひとつ大きな問題がありました。

それは、書棚の配置が覚えられず、資料を抱えながら館内をうろうろとした挙げ句、結果として配架場所を見つけられずに、やむなく調べる始末です。見つからないことが悔しく、自宅に帰る頃には1万歩越えなんてことも。

しかし、館内中を歩き回ることです。少しづつ気づいたこともありましたが、当館には、個人的に関心のある資料が数多く所蔵されていることです。

たとえば、主担当である雑誌コーナーでみるとLの棚には「邦楽の友」という資料があります。私事ですが、趣味のひとつとして、箏や三絃(三味線)の稽古に通っていることから、ここで邦楽関連の資料に出会えるとは、感無量でした。さらに進めば前の職場でも回覧されていた「土地改良」「現代農業」等や、学生時代に読み漁った「月刊陸上競技」。B棚の最新号は大好物の「餃子特集」ではないですか！

図書資料においても次々と手にとりたい資料が見つかる最中で、今では館内へ出ることにわくわくしています。

話はさらに逸れますが、私が使用している箏や三絃は、先輩方から譲っていただいたものや、職人さんの手仕事によりひとつずつ作られたものです。これらの楽器は日々のメンテナンスや修理を重ねて一生付き合っていくのですが、先日、図書修理ボランティアの作業を拝見した際に、大きく

破損した資料を丁寧に修理し、次の利用者へつないでいく仕事にとっても惹かれました。

修理本は特に児童書の分野が多いと伺っています。邦楽と分野は違えども、先人や先輩方にそうしてもらったように、これから少しずつ、当館にある大切な知の財産を、次世代の子どもたちや幅広い利用者にお届けできる一助となれるように頑張りたいと思っていますので、これからどうぞよろしく願いいたします。

図書館勤務にあたって思うこと

普及課 大竹良彦

皆様、はじめまして。この4月から普及課に赴任してまいりました大竹良彦と申します。どうぞ、よろしく願いいたします。

ボランティアの皆様におかれましては、日頃から図書館運営の充実・発展にご尽力を賜り、敬意を表する次第であります。

さて、私は、県職員として県立高校の事務を皮切りに長く教育行政に携わってまいりました。従来であれば、この3月末をもって、定年退職を迎えるところでしたが、新たな制度である定年延長の適用により、県立図書館で仕事をさせていただくこととなりました。

新たな職場である県立図書館勤務にあたり、不安を感じる一方、わくわくしていることも三つあります。

ひとつ目は、今まで勤務したことのない県の施設であること、ふたつ目は、県民等利用者の皆様と直接接する仕事ができること、



大竹良彦さん

三つ目は、大好きな本に囲まれて仕事ができることです。

子どもの頃から読書が好きで、小学生の頃は江戸川乱歩の少年探偵団物、中学生ではエルキュール・ポワロやミス・マーブルが活躍するアガサ・クリスティのミステリー、長じてロバート・B・パーカーやローレンス・ブロックのハードボイルドなどを愛読してきました。

最近では、時代小説も読むようになり、佐伯泰英氏の「居眠り磐音」シリーズ全51巻、関連の「空也十番勝負」シリーズ全10巻に取り組み、最近やっと読破したところです。数年に渡り作品世界に接してきたことから、読了時には、「あー、読み終わった！」という達成感よりも、なんとなく寂しい気持ちの方が強かったのを覚えています。

図書館の仕事に早く慣れて、読書をはじめとする県民の知的好奇心を満たす役に立

てればと考えています。

目指した職種で良い仕事がしたい

館内サービス課 川田菜月

初めまして。2024年4月1日より司書として茨城県立図書館で働くことになりました、川田菜月と申します。

出身は茨城県の神栖市であり、高校卒業後に他県へと出てしまっていました。図書館への就職を機に茨城県へと戻ってきました。

前職では千葉県警察の事務職員として働いており、鑑識課や免許センターなどの所属で仕事をしておりました。

様々な仕事をしていく中で、出身地である茨城県で働きたいという思いが強くなってきたことや、何か新しい仕事に挑戦したいという考えを抱くようになってきたことから、転職を決意しました。その中でも、特に趣味が読書であることから、本に関わる仕事をしていきたいと考えるようになりました。そこで、働きながら通信教育で司書資格を取得し、茨城県立図書館へと転職してきました。

本の中では、主にミステリーや歴史に関するものをよく読んでいます。特に今年は大河ドラマで紫式部が取り上げられていることもあり、平安時代について詳しく知りたいと感じています。どうぞよろしく願いいたします。

業務としては、今年度は総合カウンターの担当となりました。主に貸し出し・返却を行う他、期限内に資料を返却していただ



川田菜月さん

けなかった方に対する督促業務なども行っています。

これまでとはまったく異なる仕事内容に戸惑うことも多いですが、積極的に仕事を覚えて、早く図書館の業務に貢献できるようになっていきたいと考えています。特に、総合カウンターに入る際は利用者と接する機会も多いため、職員として、利用者が図書館に対してよい印象を持つことができるようにしていきたいと考えています。

また督促では、利用者に対して言いにくいことを伝えなければならない仕事ではありますが、より多くの利用者に対して資料が行き渡るように努力していきたいと思えます。

ボランティアの方々とは、積極的に意見を出し合って、よりよい図書館を作り上げて生きたいと考えています。まだまだ未熟ですが、これからよろしく願いいたします。

サッカー少年から教師へ、いまの夢

普及課 倉持知紀

4月より、茨城県立図書館の普及課に赴任いたしました倉持知紀です。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

生まれは、坂東市（旧岩井市）です。坂東市は、野菜（ネギやレタス）等の生産がとても盛んな地域です。そんな田畑が広がっている自然豊かな地域で育ちました。子どもの頃から、1日中サッカーばかりやっていたサッカー小僧でした。当時、アニメで放送されていた「キャプテン翼」が流行していました。日々、サッカーボールを追いかけていると、夢は「プロサッカー選手」になりました。小学校から大学まで、サッカー部に所属し、プロサッカー選手を目指しました。

しかし、年代が上がるにつれて、プロサッカー選手になることが、難しいことも日々実感しました。

そんな中、出身校で行った教育実習が転機となりました。生徒達と真剣に向き合う先生方を見て、私も「教師になりたい」と思いました。プロサッカー選手をあきらめ、「教師になる」という新たな夢ができました。約20年前の教員採用試験は、合格者数も少ない時期でした。プロサッカー選手は諦めましたが、教師になる夢は諦めることができませんでした。教員採用試験にも無事に合格することができ、念願の教師になることができました。

そして、約20年間、教師として児童や生徒と接したことで、私自身たくさんの感動



倉持知紀さん

体験を味わうことができ、児童や生徒からたくさんのことを学びました。今の私があるのも素晴らしい児童や生徒との出会いがあったからだと思います。

現在は、新たな職場である茨城県立図書館に赴任して1ヵ月が経ちます。日々の業務に追われ、仕事のリズムが作れません。普及課の方々にいつも助けられながら、日々業務をこなしております。県立図書館を利用する皆様や県民のために、少しでも私の力が発揮できるように、日々邁進してゆきます。

そして、普及課として、これから県民のために何ができるかを考えたいです。県民の皆様、ボランティアの皆さん等、今後ともよろしくお願いいたします。

趣味は鉢植え果樹栽培

情報資料課 小林翔太

今年度から図書館で勤務することになりました小林翔太と申します。年度早々このような重責の依頼を受け、本当に私が執筆してよいのかと緊張しながら書いております。前所属とはまったく違った県民の皆様との距離が近い故のプレッシャーがあり、今回の文章を含め年度始め早々から不安を感じていますが、精一杯努力いたしますのでよろしくお願いいたします。



小林翔太さん

私は趣味として去年から鉢植えで果樹を栽培しており、ブルーベリーやジューンベリー、ラズベリー等を育てています。始めたきっかけはお菓子作りに使う物として果物があるとレパートリーが広がるかなとブルーベリーの苗を衝動買いしたことでした。そこからホームセンターや園芸店を回るうちにどんどん収集欲がでてしまい、いまでは16種類を育てています。今年は暖かい日が多かったからか既に花が散ったものも多

く、今年の夏も暑いのかなと心配していません。

昨今は地球温暖化と、去年に至っては沸騰化と言われ、砂漠化や海面上昇といったニュースがより目まぐるしく飛び込んでくるようになったと感じます。特に砂漠化については私が植物を育てていることもあり、強い関心をもっています。先に挙げた果樹でもそれぞれ耐暑性や水やりの頻度といった特性が異なっています。砂漠のような過酷な環境でも育つサボテンなどを植えるだけで砂漠化に抑止力が効くのではと考えました。皆様にはご迷惑をおかけしてしまうと思いますが、尽力いたしますので何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

良い人間関係を作りたい

普及課 杉本牧人

皆様こんにちは。この4月より、茨城県立図書館普及課でお世話になることになりました杉本牧人と申します。図書館ボランティアの皆様には、日頃から、大変お世話になっております。赴任からおよそ1ヶ月が経ちました。なかなか仕事の内容を把握できずに多くの方々にご迷惑をおかけしていると思いますが、今後ともよろしくお願いいたします。

はじめに、これからお世話になります皆様に、自己紹介をさせていただきます。私は1973年に茨城県のお隣にあります栃木県の益子町で生を受けました。

益子町は皆さんもご存じの益子焼で有名

な町です。実家は益子焼をつくる製陶所です。私の周りにも実家が製陶所の友人がたくさんいましたが、その中には伝統を守るために製陶所を継いでいる者も大勢います。しかし、私は、小さい頃から芸術センスのなさを自覚していたため、その道へは進まず、教員という道を選択しました。その理由は月並みですが、出会った恩師、特に部活動の顧問の先生の人間性や指導力、ユーモアのセンスに影響を受け、自分も子供たちを導く仕事がしたいと思うようになったからです。



杉本牧人さん

大学では保健体育を学び、茨城県の公立学校教諭になりました。趣味は、サッカー指導・観戦（一応現役時代はサブメンバーでしたが全国高校選手権に出場しました）、映画鑑賞（映画チラシも収集しています）、DIY（ツリーハウスや屋外五右衛門風呂等をつくっています）です。

今回の定期人事異動で県立図書館にお世話になることになりましたが、私自身、これまでを振り返っても、図書館を利用してきた経験がほぼありません。そんな私が赴任してまず驚いたことが県立図書館を支えてくださっているボランティアの人数です。ボランティアの本質等の難しいことはあまり分かりませんが、私も今までボランティアの方々にはたくさん助けていただきました。

現在、学校現場ではコミュニティースクール（学校運営協議会制度）が増えてきています。教員の力だけではなく、地域と住民と力を合わせ、子供たちのより良い環境づくりに取り組む「地域とともにある学校」を目指すための仕組みです。そのためにボランティアの積極的な支援が不可欠になってきます。私も学校現場では、地域のボランティアの方々に大変お世話になりました。ボランティアをしていただいた方々は「おらが学校」のためという思いが強く、学校（子供たちの成長）のために読み聞かせをしていただいたり、奉仕作業を定期的に行っていたり、数えれば枚挙にいとまがありません。本当に心強かったです。

県立図書館にも現在9つのカテゴリーで103名のボランティアの皆様がいらっしゃいます。資料の配架をお手伝いいただく方、子供たちに読み聞かせをしていただく方など、多くの力が結集して今の県立図書館があるのだと思います。今後もよろしく願いいたします。

最後になりますが、茨城県立図書館を支えてくださっている多くの皆様のお力をお借りして、みんなでこれまで以上に魅力的な県立図書館にしていきたいと思います。よろし

くお願いいたします。

視聴覚資料を多くの方へ届けたい

情報資料課 高田彩子

今年度より県立図書館情報資料課に異動となりました、高田と申します。

以前は県庁 農林水産部農地局農地整備課で土地改良事業の補助金申請等を2年間担当しておりました。農地整備課ではデスクワークが主だったため、ほとんど歩くことのない生活を送っておりましたが、県立図書館に異動して3週間、1日の歩数は約2.5倍となり、既に足が悲鳴を上げています。



高田彩子さん

そんな私の担当業務は、主に視聴覚ブースの運営・音響資料（CD）の購入です。しかしながら、私は、学生時代から何度も県立図書館を利用していたにも関わらず、視聴覚ブースを訪れたことは一度もなく、インターネットの使用や視聴覚資料の閲覧が出来る場所があるということを恥ずかしなが

ら勤務して初めて知りました。

しかし、私のような方は、意外といらっしゃるのではないのでしょうか。各人がスマートフォンやタブレット等で簡単にインターネットにアクセスできる時代になって久しく、近年ではサブスクリプションで音楽やドラマ、映画に触れることも盛んになっています。そのような中でわざわざ図書館に足を運び、総合カウンターから遠く離れた視聴覚ブースを訪れるというのは、なかなかないことなのではないのでしょうか。

この状況を少しでも変えたいというのが、異動して僅か3週間ではありますが、今の私の願いであり、目標です。インターネットやサブスクリプションにはない資料や、実際に資料を見て触れて得られる新たな知見をお届けできる場所をつくりたいと思っています。

特に、視覚障がいのあるご利用者様にも耳から読書を楽しむことができるよう図書を朗読した音声を録音した「録音図書」は、まさに上記のような場所をつくるために重要な資料だと感じております。録音図書製作ボランティアの皆様と共に、視覚障がいのある方々にももっと届くように、そしてそうでない方々にも録音図書の存在を知っていただけるよう、尽力していく所存です。

まだまだ不慣れなことが多く、ご迷惑をおかけするかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

業務内容を紹介すれば

企画管理課 田口雅人

茨城県立図書館に4月に赴任してまいりました企画管理課の田口雅人と申します。私の業務分担は修繕料、手数料、委託料、使用料賃借料及び工事請負費の予算執行に関すること、施設設備等の維持管理に関することです。



田口雅人さん

どのような業務なのか、上記の単語だけでは中々イメージし難いかと思いますので分かりやすいよう具体的に紹介させていただきます。まず、修繕料についてですが、これは図書館内の各種設備で破損が発生している箇所の修理を行うための経費になります。茨城県立図書館は茨城県議会議事堂時代を含めると70年を超える歴史のある建造物です。耐用年数を超え故障や破損している設備が多々見受けられますのでこれらの修繕は速やかに行いたいと考えています。次に手数料、委託料についてですが、これ

らは図書館職員以外の業者に依頼をして行う事業の経費になります。具体的なものと図書館から排出される一般廃棄物の運搬、図書館全体の機械警備、図書館の消防設備の点検があげられます。

使用料賃借料はパソコンや機械などの物品のリース、データベース利用権の利用料等の経費になります。

工事請負費は建造物の大規模な改修や建造物の機能そのものを変えるような工事を行うための経費になります。上記でも触れたように図書館の建物は70年以上経過しておりますので今後も図書館機能維持のために様々な工事を予定しております。

施設設備等の維持管理についてですがこれは図書館の建物そのものや設置されている設備の修繕、改修の計画を立案し実行をするということです。上記の修繕や工事は突発的なものを除きこの計画のもと行っています。

これらについて計画的に執行を行っていくことはもちろん、利用者の方が快適に利用できる環境の構築が私の目標です。

最後になりましたが、ボランティアの皆様には日頃より図書館ボランティアの活動において大変お世話になっております。施設設備についてお気づきのことがありましたらご連絡いただくと幸いです。

編集後記

桜の季節は、人事異動の季節でもあり、さまざまな可能性が生まれる季節です。

通信紙では、今回、初めて、茨城県立図書館の全新任職員 8 人と同ボランティアの全新人の自己紹介(写真込みで 1 ページ、氏名、所属、自己アピール写真、分担業務、趣味など)を企画したところ、前者については、杉本牧人普及課長の尽力により実現したものの、後者については、調整がつかず、今回は、見送ることになりましたが、今後、随時、紹介する方針です。

通信紙では、新たな試みとして、図書館と同ボランティアの人間の魅力が引き出せるような企画を検討中です。

鈴木忠雄さん(元茨城県立図書館普及課長)は、2024 年 4 月 1 日付で、茨城県坂東市岩井第一小学校校長に昇格し、新たな職場で、業務に励んでいます。鈴木さんには、1 年間、通信紙の編集に協力いただき、多大な貢献があり、新たな分野と方法を切り拓くことができました。

鈴木さんは、考え方が良く、素直で、性格が良く、健康的で、行動力のある魅力的な指導者であり、学ぶことの多い 1 年間でした。

鈴木さんとやり取りして感じたことは、教育者らしく、それも将来に大きな影響を与える時期の小学生に対し、どのようなことがあっても、決して否定的なことは言わず、常に、プラス思考で、良い面を見つけ、励ましてやろうとする教育方針です。

また、いつか、どこかで、ぜひ、お目にかかりたい心境です。

私は、まったく偶然のことから、原研で四



元茨城県立図書館普及課長の鈴木忠雄さんが校長として勤務している茨城県坂東市岩井第一小学校

半世紀も、東大で 10 年間も、研究の機会をえて、周囲からさまざまなことを学びましたが、良い仲間とそうでない仲間、良い指導者とそうでない指導者に遭遇し、あらゆることに対し、あらゆる意味で、両者は、半々、存在すると悟りました。

良い指導者は、仕事の途中、進捗状況を的確に把握し、停滞している場合には、手遅れにならないうちに、それとなく、「何々と言う文献を読むといいよ」とか、「誰々の著書が参考になるよ」と、解決の糸口となる重要なヒントを与え、良い結果につながるように配慮してくれるものです。

桜井 淳